

## 地方国立大学における人工知能（AI）に関する受託研究の状況 —愛媛大学，島根大学，宮崎大学の事例—

○服部大輔，北村寿宏（島根大学地域未来協創本部），秋丸國廣（愛媛大学社会連携推進機構），  
西片奈保子（宮崎大学産学・地域連携センター）

### 1. はじめに

人工知能（AI）を用いた地方国立大学と企業等との共同研究は，近年大幅に増加していることが分かってきた\*．具体的には，2015～2019年度の約5年間において，件数は3.1倍，受入額は5.9倍に増加していた．これは，近年，AI関連の市場が急速に拡大し，企業等がAI分野への研究投資を増加させたためである．さらに相手先は「中小企業」が，業種は「情報通信業」と「学術研究，専門・技術サービス業」が，技術分類は「動画像処理」と「情報一般」が多いといった情報も分かった\*．しかしながら，大学の外部収入において共同研究と双璧を成す受託研究については，AI分野に関してはほとんど研究が実施されておらず，不明な点が多い．本研究では，地方国立大学において約5年間のAIに関係した受託研究を調査し，その状況を明らかにすることを目的とした．

### 2. 方法

愛媛大学，島根大学，宮崎大学を調査大学として選定した．3大学における2015年4月から2019年12月までの受託研究を調査し，AIに関連した案件について各年度の件数および受入額を算出した．また，受入額の規模ごとの件数，学部および委託者別の件数および受入額，コーディネイターの事前関与について調査を行った．

### 3. 結果および考察

約5年間で，AIに関連した受託研究は，件数が1.3倍，受入額が26.4倍に増加していた(図)．受入額の約5年間の総額は，約6億7千万円であった．これは，3大学におけるAIに関連した共同研究\*の約5倍の額であった．受入額が急激に増加したのは，愛媛大学において1億円以上の大型の受託研究が2017年度以降に数件あったためである．愛媛大学や宮崎大学とくらべ，島根大学は件数，額ともに極端に少なかった．受入額の規模別の分布では，100万円未満が26件と最も多く，AIを用いた共同研究と同様の結果であった．学部別では，農学系が件数，受入額ともに最も高い結果となった．AIを用いた共同研究では理工学系が最も高く\*，受託研究と共同研究の大きな違いであった．委託者の分類では，件数では，大きな違いがなかったが，額では「省庁」が最も高い値を示した．コーディネイターが事前に関わった受託研究は，全体の11%のみであった．研究者は，独自に応募したり他組織からの共同受託の誘いを受けたりすることにより受託研究へアプローチしていると推察される．

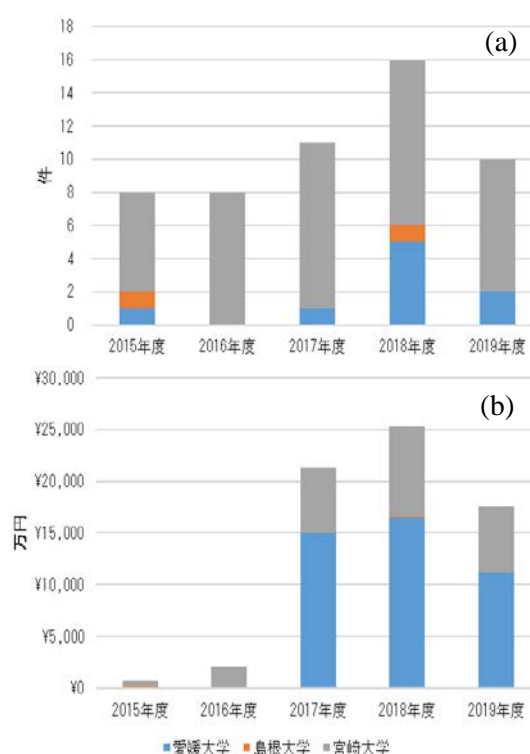


図 約5年間のAIに関連した受託研究の件数 (a)および受入額(b)の推移

#### 【参考文献】

\*服部大輔，秋丸國廣，西片奈保子，北村寿宏「地方国立大学における人工知能（AI）に関する共同研究の特徴と課題—愛媛大学，島根大学，宮崎大学の事例—」産学連携学 2021（掲載予定）

==== = = = = メモ欄 = = = = = = = = = = = =